

# 「竹田城跡」南千畳 マツ受難



2001年4月に撮影された竹田城跡。南千畳にマツが並んで立っている＝吉田利栄さん提供

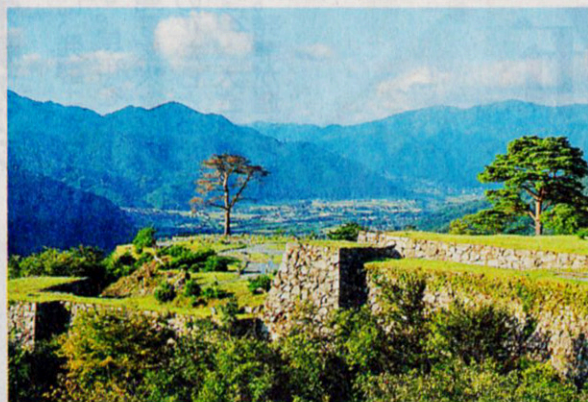
朝来市和田山町の国史跡「竹田城跡」で、南千畳にそびえ立っていたマツが枯れ、冬場に切り倒されることになった。南千畳では2014年にも2本のマツが枯れており、景観が変わってきている。

市教委や同市在住の樹木

## 樹齢100年超の木

## 猛暑と大雪で枯死

医、宮田和男さん(76)によると、14年の調査で城跡内に7本あるマツのうち、南千畳の2本がマツクイムシなどの影響で枯死、切り倒された。その後、南千畳では入城者がマツの根元を踏まないようにロープを張って近づけないようにする措置もとっていた。



今回、新たに枯死したのは、南千畳の南端にあるアカマツで、樹齢は100年以上と推定され、樹高は10メートル以上。城跡内に残る5本のマツの中でも古く、目立っている。だが、昨年度の猛暑と大雪で弱ったとみられ、県みどりのヘリテージマネージャー会但馬が今夏、診断した結果、マツの生活反応が確認できず、樹勢が回復する見込みはないことがわかった。

このため市教委はこのマツを冬場の閉山期に伐採する予定。今後は樹木医らの助言を得ながら、城跡内で育っている枯れたマツの子孫の幼木を育成する計画だ。

(甲斐俊作)

天守台から南千畳を望む。中央やや左にある茶色の木が枯死したマツ＝竹田城跡